

古体小説叢刊『遊仙窟校注』の内容

土屋 英明

一
今年（二〇一〇）五月、北京、中華書局から、古体小説叢刊の一冊として、唐、張文成撰、李時人、詹緒左校注『遊仙窟校注』が出版された。本の大きさはA5平装だ。

冒頭に《古体小説叢刊》出版説明（二頁）があり、次に『遊仙窟』の抄本と刊本の図版（一頁一図版）が八枚入っている。そして目次（二頁）、前言と続くのだが、目次まで頁数は付いていない。

前言では、一、張文成の生涯と『遊仙窟』、二、張文成の『遊仙窟』以外の著述、三、張文成の家柄と性格・品性、四、『遊仙窟』の精神、芸術性及びその成因、五、『遊仙窟』の日本での影響が、七一頁にわたり、李時人により克明に論じられている。

『遊仙窟』の本文は「江戸初期無刊記刊本」（日本和泉書院影印、一九八三）を底本にし、詳細な校注が施されている。本文は一一三六頁までだ。なんと校注は三七一四三二頁まで続き、九三六項目に及んでいる。

校注の参考に使われた文献は『醍醐寺抄本』（康永三年、一三四四）、『真福寺抄本』（文和二年、一三五三）、『金剛寺旧藏鎌倉末期抄本』など一三種類の抄本と慶安五年（一六五二）刊本、元禄三年（一六九〇）刊本など三種類の刊本、合計一六種類である。

そして最後に附録（四三三―五二六頁）として、この本が出版されるまでに学術誌や大学の学報に掲載された論文、一、張文成の業績及び『遊仙窟』の成立時期の考察、二、『遊仙窟』の日本古抄本と

〔唐〕張文成撰
／李時人・詹緒左校注
遊仙窟校注（古体小説叢刊）
中華書局 二〇一〇年
三、三八一―四

古刊本、三、『遊仙窟』の版本と校勘など五編がまとめられている。

李時人は前言でこういつている。

「しかし、今日になっても『遊仙窟』にはもう一歩進んだ研究が必要だ。一つには『遊仙窟』の作者、成立、影響の研究は不十分で、一部ではまだ似て非なる考え方がされている。二つには、『遊仙窟』の認識と評価はまちまちで、大きな差がある。甚だしい場合は、全く反対の意見もあるのだ。筆者がこの前言を書いたのは、校注の過程を説明するほかに、もし問題があったら、ぜひ各自の考え方を提出していただき、学界の同志の参考にしたかったからだ。」

『遊仙窟』では、男の主人公が女の主

中国研究所 会員制度のご案内

当研究所は、中国およびアジア諸国との友好を願う立場から、現代中国の政治、経済、社会、文化、歴史を科学的に研究する民間研究機関として、1946年1月に創設されました。以来今日にいたるまで、出版物の編集発行、専門図書館の運営を活動の柱とし、日本における中国の調査・研究の拠点として歴史を重ねてきました。

中国研究者および広く中国に関心のある方々の参加と交流を目的とした個人向けの研究会員制度を設けております。当研究所の趣旨をご理解の上、入会をご検討いただけますよう、何卒よろしく願ひ申し上げます。

60年以上の歴史を有する研究所として、会員の皆様により充実したサービスを提供できるよう努力してまいります。

【研究会員】

会費：9,600円(1年間)

学生会員：5,000円(1年間)

【会員特典】

- ・当研究所発行の学術月刊誌『中国研究月報』の無料配布
 - ・当研究所主催の公開講座等の参加料割引
- 詳細はお問い合わせください。

(社)中国研究所

〒112-0012

東京都文京区大塚 6-22-18

TEL: 03-3947-8029

FAX: 03-3947-8039

e-mail: c-chuken@tcn-catv.ne.jp

URL: http://www.soc.nii.ac.jp/fica/

人公をからかって気を引き、付かず離れず戯れ合うドラマが展開されている。はつきりした、或は暗にほめめかす色情描写がたくさん出てくる。(中略)これらの色情描写は人間性の解放を求める願望、そして実践だと理解できる。その後、専ら性交を描写するために書かれた色情小説とは同じものではない。『遊仙窟』の色情描写は社会に大きな影響を与えるような内容ではなくても、中国の古代小説が興った初期の段階で、張文成が男女の性愛は人間の本性だと指摘する第一歩を踏み出したのは実に偉大なことだ。何よりも驚かされるのは、なんと作者自身が小説の主人公であり、公表されているのは本人の恋物語だという点だ。

特に関心があったのは、仙女の屋敷で主人公の張生が十娘と一夜をとにもする部分にどのような校注が施されているか

また附録の『遊仙窟』版本と校勘拳要」
でこういつている。
「筆者は、日本に現存している『遊仙窟』の古抄本と古刊本の影印本をたくさん収集した。長い時間をかけて頑張り、やっと『遊仙窟校注』を完成した。これを出版する前に「校勘拳要」を発表して国内と海外の学界同志からご指摘を仰ぎたい」と願っている」

〔注〕この附録の論文は中華書局『文史』第四輯(二〇〇五)に発表された。

二

だった。
それでは『遊仙窟校注』から、この部分の原文と校注を引用してみよう。
于時夜久更深、情急意密(八二五)。魚燈四面照、蠟燭兩辺明(八二五)。十娘則喚桂心、并呼芍藥(八二七)、与少府脱鞬履、置袍衣、閣幞頭、掛腰帶(八二八)。然後自与十娘施綾帔、解羅裙(八二九)、脱紅衫、去綠練(八三〇)。花容滿目、香風裂鼻(八三一)。心去無人制、情来不自禁。挿手紅禪、交脚翠被(八三二)；両唇対口、一臂支頭(八三三)。拍搦奶房頭、摩挲髀子上(八三四)。一嚙一意快、一勒一心傷(八三五)。鼻裏痠癢(八三六)、心裏結縲(八三七)。少時眼華耳熱、脈脹筋舒(八三八)。始知難逢難見、可貴可重。俄頃中間(八三九) 教廻相接。誰知可憎病鶴、

夜半驚人（八四〇）；薄媚狂鷄、三更唱曉（八四一）。遂則被衣对坐、泣淚相看（八四二）。

この濡れ場の部分には、校注が一八付けられている。字の校勘ははぶぎ、校注の例文は取って簡潔にした。

（八二六）〈魚燈〉魚型燈、又魚燭（以入魚油膏做的燭）亦称「魚燈」。

（八二八）〈鞭履〉靴子（幞頭）古代男子の一種頭巾。

（八二九）〈施綾帔〉解去綾子做的披肩（綾）一種薄而細、紋如水凌、光如鏡面的絲織品（帔）古代婦女披在肩上的長帛巾、也称「帔子」「帔帛」「領巾」羅裙、絲羅製成的裙子、古時多為女子所著。

（八三〇）〈綠袿〉緑色の袿胸、胸衣。

（八三二）〈花容〉如花的面容、多称女子。

〈滿目〉充滿視野（香風）芬芳的氣息

〈裂鼻〉鼻欲裂、形容氣味濃烈撲鼻。

（八三三）〈褌〉亦作「棍」、古代的滿褶褌、有別於無褶的套褌（翠被）織（或繡）有翡翠紋飾的被子。

（八三四）〈拍搦〉拍撫（摩掌）亦作「摩莎」「摩婆」撫摸（髀子）股、大腿。

（八三五）〈嚙〉咬、啃。〈勒〉搜。〈心傷〉

与上句之「意快」義同（傷）欲快。

（八三六）〈瘦瘠〉猶言酸痛。

（八三七）〈結縵〉纏結縵繞、喻心緒紛亂（縵）纏繞。

（八三八）〈眼華〉即「眼花」、謂眼目昏花、看東西模糊不清。

（八三九）〈俄頃中間〉也作「俄頃之間」指瞬間、很短的時間。

（八四〇）〈誰知〉猶言誰料（知）料想（可憎）可惡、令人厭惡惱恨（鵲）烏鵲（驚人）讓人驚醒。

（八四一）〈薄媚〉即「不媚」意為可憎、令人討厭。

（八四二）〈遂則〉即「遂即」、副詞、於是、就。〈被衣〉即披衣（謂將衣服披在身上而臂不入袖）。

〈注〉（八二五）（八二七）（八三三）は字の校勘のため削除。

それでは、まずこの部分の筆者の訳を

ご覧になっていただきたい。ある部分はこの校注に基づかず、独自の解釈になっている。そうしないと意味がはつきりしないからだ。理由は後で説明する。

夜はだんだん更けてきた。気持が高まり、抱きたくてたまらない。魚油の明かりは周囲を照らし、両側に蠟燭がついている。十娘は侍女の桂心を呼んだ。また芍薬も呼んで、わたしが靴を脱ぐのを手伝わせた。袍衣を畳み、幞巾を横に置き、帯を掛けてくれた。

今度はわたしが十娘の綾の帔を取り、羅の裙の紐をほどいて紅い袷を脱がした。それから、緑の袿をはずした。まぶしいほどの体だ。ぶんといい匂いがした。頭に血がのぼり、抑えられなくなってきた。紅い褌に手を挿し込み、翠の被に脚をからませた。

唇に口を押しつけ、腕を首に回す。もう一方の手で乳房を触りながらわって入り、髀子にあてがいこすりつけた。抜き差したびにぐっと食い締められ、なんともいえない心地がする。先がむずむずして、どうにもたまらなくなってきた。あつと言う間に鈴口がしびれて雁首が熱くなり、筋張ったとたんにいっしょにしまった。

こんなすばらしいお宝に巡り会ったの

は初めてだったから、時間をおしんで夜の明けないうちに二、三回しようと思つた。ところが夜中に憎い鳥の鳴き声におどかされ、それから今度はまだ夜が明けていないのに、情け容赦もなく、狂つた鶏が時を告げた。しかたなく着物を肩にかけて向き合つて座り、涙を流していた。

筆者の解釈は校注と異なるところがあ
る。(花容)きれいな体。衫を脱がし、
袜わだかまをはずしたら、体がでてくるからだ。
(香風)体から出るいい匂い。(髀)は内
股だ。しかし子がつき髀子となつてい
るので、女陰だと解釈した。(鬢)と(勒)

は女陰が食い縮める。縮まりがいい。「鼻裏痠、心裏結縲。少時眼華耳熱、脈脹筋舒」は直訳すると「鼻の中がじんとして心が乱れ、そのうちに目が震んで耳が熱くなり、血管がふくれて筋がすつきりした」となる。これでは何のことかよく分からない。張文成がこんな文章を書くだろうか。

ちなみに手元にある本の中から、この部分の訳を二三紹介してみよう。

一六九〇年、元禄版、文章生英房「鼻裏痠、心裏結縲、少時眼華耳熱、脈脹筋舒」。昭和二十三年、魚返善雄「鼻はむすぶ、胸つまるこち。やがて目はかすみ、耳はのほせ脈ふとく筋ゆるみ」(『遊仙窟』東書房)。昭和四〇年、前野直彬「鼻のうちにはうずき、心の底は堪えかねる思い、まもなく目はくらみ耳はほてり、脈はふくれ、筋はゆるむとおぼえた」(『東洋文庫四三』平凡社)。その他の訳も、これらの訳と似たり寄つたりだ。

『遊仙窟』が難解なのは、いくつかの理由がある。

一 六朝から初唐の時代に流行した四六駢儷体という凝つた文体で書かれている。四字・六字の対句を多く使い、美辞麗句をちりばめ、リズムと韻が重視されている。

二 多くの故事が引用されている。故事が分からないと文章の意味も分からない。

三 即興詩・詞が大半を占めている。

四 俗語もあり、抄本では誤字がある。

中国発行の日本語月刊総合誌

人民中国

People's China 11月号

人民中国雑誌社 定価400円(税込)
[年間購読料4800円(税込)]

【特集】出稼ぎ労働者に夢の翼を・設立30周年を迎えた深圳経済特区
◆小劇場演劇に新しい潮流◆「マ ルコ・ポーロの道」自転車で完走【連載】中国経済記者が「万博を読む」⑤上海にルネサンスを◆長江文明を訪ねて①馬王堆(下)帛画と帛書—古代思想を知る手がかり◆私のしごと①街独自の名刺を作り出す・都市環境色彩デザインナー◆ぶらり旅上海⑦松江でたどる「唐宋元明清」◆随想・世界とつきあう② Peking Opera Ⅱ京劇◆世界遺産めぐり②貴州省赤水市・中国のジュラシックパーク◆芸術回廊・彭世強の川底下村の水墨画

「人民中国」は中国で編集・発行される日本語雑誌です。政治、社会、考古、歴史、美術など幅広い分野の最新情報を満載。
ご希望の方に見本誌お送りいたします。

03 (3937) 0300 東方書店

五 性に関する表現には双関語（掛け詞）を使った隠喩と判じ読みの技巧が凝らされている。

例えば「刀と鞘」「筆と硯」「杓子と爵」「箭と弓」は男根と女陰の隠喩だ。性行為が間接的に表現されている。また判じ読みというのは、掛け詞を使って表と裏、二つの意味を持たせる表現法である。暗号のようなものだ。

先ほどの「鼻裏痠癢……」の中の「鼻」は亀頭（鼻には器物の一部が隆起して、穴のあいた部分という意味がある。鈴木孝夫著『言語文化学ノート』（大修館書店 一九九八）によると、ロシア語でも「鼻」は男根の隠喩だそうだ。また「耳」は女陰だという。「眼」は鈴口（眼には穴という意味があり、中国語で鈴口は「馬眼」という。形が似ているからだろう。「華」には真ん中を切り開く当中剖開という意味がある。「耳」は雁首（耳には物の両側に持ち上げやすいようにつけてある出っ張りという意味がある）。そして「舒」はすつきりする、舒服となれば気持がいいという意味になる。

このように解釈してこの部分を訳すと、前にもご覧いただいたように「先がむずむずして、どうにもたまらなくなってきた。あつと言う間に鈴口がしびれて雁首が熱くなり、筋張ったとたんについてしまった」となる。

進士という知識人として栄誉ある地位にあった作者、張文成は、掛け詞を使った隠喩と判じ読みの語法を巧みに駆使し、露骨な内容を上手に隠しているのだ。今回出版された校注本では、隠喩については触れている。例えば「刀と鞘」は「色情調逗語（エッチなからかい言葉）」、「色情調逗語（エッチな言葉）」、「筆と硯」は「色情隠喩（エッチな隠喩）」だといっている。しかし、何を指しているのか具体的な説明はない。ほかの所で「戯諺語（きわどい冗談）」というだけですまされている。そこまでいわずとも、充分想像がつくでしょうといった感じだ。

ところが酒をつぐ「杓子」については珍しく、傳憎享『金瓶梅隱語揭秘』上巻にある「瓢的双関義」の文を引用し、「女陰」の隠喩だといっている。はたしてそ

うだろうか。男根でないとおかしい。杓子は爵と対になり、女陰は爵のほうだろう。しかし、爵の注は「飲酒器」となっている。

校注者もご承知のように『遊仙窟』には、性にかかわる言葉が多い。それなのに具体的な説明がない。単なる言葉の解説で終わっている。

『遊仙窟校注』は、内容よりも字句の解釈を主とする訓詁学、正確な例文をあげて古典を研究する考証学が遵守された立派な仕事だ。しかし、この殻を破らないと『遊仙窟』には読み解けない部分があるのだ。

それはそれとして、衣服、装身具、食べ物、食器類、そして地名、故事、難しい言葉、性にかかわる言葉以外の掛け詞などが、簡潔に分かりやすく解説されている。難解な『遊仙窟』を読み解くには、欠かせない貴重な詞典だといえる。

この『遊仙窟校注』に刺激され、筆者が訳した『遊仙窟』（徳間文庫『中国艶妖譚』二〇〇五）に収録をもう一度読み直し、手を入れておこうと思っている。

（つちや・えいめい 文筆家）